



新関 一夫 議員

質問1 市内の国・道の道路整備について

市長 地域住民のご理解を得ながら進めていきたい

問 (1) 国道228号富川部分について

長らく支障になっていた物件が、このたび整理されましたが、富川橋の改修を含め、今後の見通しを伺います。

(2) 道道北斗追分インター線について

北海道の計画街路ですが、これまで「久根別川の河川改修」、「JRの鉄橋や踏切」、「用地買収の見通し」等々で整備が遅れてきました。

いよいよ事業が進もうとしているようですが、進捗状況についてお知らせください。また、この事業に対する市の考えも併せてお知らせください。

(3) 道道大野上磯線について

この道路は久根別3丁目から国道228号へ陸橋をつなこうとする道路ですが、40年以上手付かずです。

この陸橋は膨大な予算を必要としますし、現道（久根別駅西側踏切）の閉鎖が伴う計画です。

この踏切は線路と斜交しているため拡幅もできず、危険性が指摘されてきまし

た。私は、現実的な対応をする時期だと考えています。

市は北海道に対し大規模な陸橋を取りやめ、現道の踏切部分を改良し、交通安全に対処するべきと考えますが、考えをお聞きます。

答(市長) (1) 今後の予定については、函館開発建設部に確認したところ、来年度以降、早期に当該部分の改良工事を進めてまいりたいとのことです。

なお、その先の富川橋前後の拡幅整備については、未定とのことでしたので、市としては、当初計画のとおり、早期に着工していただくよう、引き続き要望してまいりたい。

(2) 当該路線は、昭和40年に都市計画決定をした街路ですが、長期間、事業が進捗しない状況が続いていました。

しかしながら、このたび、事業主体である北海道において、土地所有者との交渉が徐々に進んだこと、さらには大規模な公共事業の際に行なわれる事前評価の結果、国に対し事業要望を行うことは妥当であるとの判断を受けたことから、次のステップとして、市と北海道の共催による住民説明会を本年9月7日に総合文化センターで開催したところです。

その後、地元町内会から反対意見などが寄せられたことから、市と北海道では、地域住民の方々に説明会を開催し、ご理

解をいただけるよう努力してまいりたい。

なお、市としては、この街路は基幹道路であり、災害時の避難路として期待する路線ですので、地域住民のご理解をいただきながら早期の完成を願っています。

(3) 当該路線は、平成28年に事業化に向けて説明会を開催した際、周辺町内会にアンケート調査を行ったところ、2町内会から既存の踏切廃止について反対意見が出されたことを受け、その後、この事業は進捗していません。

市としては、地元意見を踏まえ、最低限、歩行者や自転車などが通行できる踏切を残し、引き続き、現計画による早期完成を要望してまいりたい。

なお、踏切の改良については歩道部分の確保など交通安全に資する改良を北海道と協議中です。

質問2 北斗市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画について

市長 市民が安心して暮らすことができるような計画としたい

問 いよいよ団塊の世代が後期高齢者になろうとしています。

「老老介護」や「ヤングケアラー」の問題も身近な話として感じています。そのような背景の中、新しい計画の見通しについて考えを伺います。

答(市長) 本計画は、2025年問題及び2040年問題を視野に入れ、介護需

要の大きな傾向を把握し、その上でサービスの水準など施策の方向性を示すものであり、来年2月の完成を目指しています。

また、現在の社会問題については地域の課題や解決方法を視野に入れながら実態把握の調査を行い、策定委員のご意見を伺いながら計画の策定にあたるとしており、基本的には、高齢者が在宅で充実した生活を送ることができるよう、また、市民が地域で安心して暮らすことができるような計画の実現に努めてまいりたい。

質問3 観光協会に対する市の監査について

代表監査委員 適正な管理運営に努めるよう指摘

問 今春の観光協会に対する市の監査で、異例ともいえる監査指摘事項がありました。なぜそのような指摘に至ったのかについて伺います。

答(代表監査委員) ご指摘の監査は、本年2月に実施したもので、監査の結果として、帳票類等の提出書類において、経理の状況を確認できない点が多く見受けられたことから、帳簿類等の作成方法に改善と、適正な管理運営に努められた旨の指摘をしたところであり、これを受け、次年度についても同様の監査を実施することとしています。

この踏切は線路と斜交しているため拡幅もできず、危険性が指摘されてきまし